

(学年) 2 学年, (教科・科目) 外国語・コミュニケーション英語Ⅱ

協働学習

(単元) World Trip

(本時のねらい)

## ・題材観

コロナ禍で自由に旅行することが難しくなっている現況に関連づけ、海外旅行に出かけたつもりで、外国の文化や観光地などを確認しながら、過去形動詞の復習をする。多くの絵と世界地図を使用しているため、英語を苦手としている生徒にとっても親しみやすく、楽しみながら英語表現に慣れさせる活動としたい。

## ・指導観

外国の都市とそれぞれの文化や観光地などとのマッチング活動の中で、過去形動詞を活用し、世界旅行を英語で表現する。中学校既習の基本的な語彙を用いた容易な表現が中心であり、また外国とのマッチングは助動詞の単元でも実施していることから、生徒が理解しやすく、生徒の実態に適した内容となっている。

(ICT活用方法)

導入：外国の都市の様々な文化や観光地などを表した視覚情報を電子黒板に提示することにより、本時の学習内容に対する生徒の興味・関心を惹く。またカラー版で大きく投影できるので、紙媒体に比べ、情報をよりわかりやすく明確に伝えることが期待できる。

展開：答え合わせの場面で文書作成ソフトの付箋機能を使い、電子黒板上で付箋をとりながら進めていく。別解が予想される部分では、生徒が発表した英語を教師が1人1台端末に入力し、正解を共有する。

まとめ：プレゼンテーションソフトで世界地図を提示し、本時で学習した世界9都市の位置関係を確認させ、地理的分野も含めた知識の定着と伸長を図る。文書作成ソフトの付箋機能に加え、プレゼンテーションソフトのアニメーションを活用することで、学級全体で正解を共有する。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法
導入 5分	・電子黒板に映したワークシート①のWorld Tripに関心をもつ。	・様々な外国の文化を表す英文の学習と、過去形の復習が本時の授業内容であることを伝える。	・外国の都市の様々な文化などを示した絵を電子黒板に提示する。
展開 35分	・グループになり、ワークシート①の動詞の過去形を書く。 ・例文を見て、SVOの英文の書き方の説明を聞く。	・教科書の動詞一覧を調べてよいことを伝える。 ・関連のある絵をまず選んだ後に過去形を関連づけるというヒントを与える。	・電子黒板上で付箋をとりながら答え合わせをする。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループでワークシート②に取り組む。</li> <li>各グループから順に、書いた英文を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動詞の使い方は別解があることを説明する。</li> <li>答え合わせは、英文を音読しなければならないルールを知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板上で付箋をとり、例文の正解を示す。</li> <li>生徒が英文を読むタイミングに合わせて、付箋をとったり1人1台端末に入力する。</li> </ul>
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板の世界地図を見て、本時に学習した都市の位置の確認と、英文を復習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>順に答え合わせをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションソフトで世界地図を映し、アニメーションを活用しながら発表させる。英文の復習についても、アニメーションを活用する。</li> </ul>

(授業の様子)



教材投影しながら説明し、グループ活動している様子



1. In Cairo, we rode \_\_\_\_\_.

使用したワークシートの一例

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

世界の観光地や文化がカラフルな絵で示されていたので、生徒の関心を惹いたり、学習意欲の向上に有効であった。全員がやり方を理解していた。一方で、世界地図がカラフルであったことで、該当の国や都市の位置がどこであるのか、少々迷った生徒もいたようだった。答え合わせの場面で、文書作成ソフトの付箋機能を取り入れたり、プレゼンテーションソフトのアニメーションを活用したことで、生徒は即時に別解や誤答に気づくことができ、それらを学級全体でスムーズに共有できた。

今後は、ICT一辺倒になるのではなく、ICTと紙媒体のそれぞれの長所を生かした授業構成になるように努めたい。